

令和8年度 第1回 倫理審査委員会

令和8年4月20日

受付番号 8-1

申請者	副看護師長	土田 桂子
課題名	神経難病病棟におけるスキンケアに対するケア向上のための7年間の取り組み	
研究の概要	<p>A病棟では神経難病（パーキンソン病・脊髄小脳変性症・多系統萎縮症・ALS）や脳血管障害（脳梗塞・高次機能障害）の患者を中心とした病棟であり、安全安楽な生活ができるよう援助している。患者は疾患の進行に伴い、筋力の低下、筋緊張、拘縮が生じ、日常生活動（ADL）が徐々に低下することがある。そのため、体位変換や車椅子への移乗など看護師による介助を必要とする状況が増える。A病棟では、これらの身体的状況や介入の頻度によって、褥瘡やスキンケアを発生しやすい状態である。中でもスキンケアは看護師の注意や適切なケアで予防可能な皮膚損傷であるが、看護師のケアの統一が図れず、発生後の対応や予防ケアの不足が課題であり、スキンケアの発生を防ぐことが出来なかった。</p> <p>令和元年度より、褥瘡リンクナース会では、病棟の特殊性と問題に対し毎年取り組みを行っている。A病棟でもスキンケアに関する取り組みを継続してきた。褥瘡の予防の取り組みの成果は、令和元年度が褥瘡発生8件であったものが、令和7年度には0件となった。その一方でスキンケアは令和元年が3件、2年が6件、3年が7件と発生が続き、令和7年は3件の発生があった。2015年日本創傷・オストミー・失禁管理学会はベストプラクティスを提示し、予防や保護のケアの標準化を推奨している。A病棟においてもガイドラインを参考に、令和元年からスキンケア予防の取り組みを行った。7年間の褥瘡予防対策とスキンケアの取り組み内容を比較し、教育方法や発生状況の変化に対して分析・考察する。その結果から、看護師が患者に対し、効果的なスキンケアの予防ケアが提供できるようになることを目的とする。</p> <p>対象は、研究期間中のA病棟でのスキンケア発生患者。患者情報は過去の看護計画と記録、カンファレンス記録、インシデントレポート、統計データを用い、個人が特定されないようにして分析する。なお、病棟看護師の理解度調査や技術評価は収集せず、病棟全体の取り組み内容と発生件数・発生状況から分析する。方法は、過去の病棟取り組みを振り返る後方視的記述研究。</p> <p>実施場所はA病棟とし、期間は令和元年5月～令和8年6月とする。</p>	
判定	承認	